

# 障害学生支援に関する授業担当教員アンケート

(令和元年度)

## 1. 実施の目的

今後の障害学生支援活動の充実や方向性を検討するため、障害のある学生が受講する授業の担当教員へアンケート調査を実施し、障害学生支援センターで提供している合理的配慮や取り組みの有効性について検討した。

## 2. 方法

令和元年度前期・後期において本学で開講された授業のうち、障害のある学生が受講した授業の担当教員 104 名（常勤 69 名、非常勤 35 名）を対象に、令和 2 年 1～2 月にかけて、郵送によるアンケート調査を実施した。そのうち、36 名から回答を得た（回収率 34.6%）。なお、回答者は常勤教員 25 名（36.2%）、非常勤講師 11 名（31.4%）であった。

## 3. 結果および概要

各質問項目の結果は以下の通りである。

「問① 担当した授業（障害のある学生が受講した授業）について」

担当した授業における障害のある学生の障害種（複数回答）を尋ねたところ、視覚障害 11 件（23%）、聴覚障害 15 件（31%）、肢体不自由 2 件（4%）、病弱・身体虚弱 8 件（17%）、発達障害 6 件（13%）、精神障害 3 件（6%）、障害名不明 3 件（6%）であった（図 4-1）。

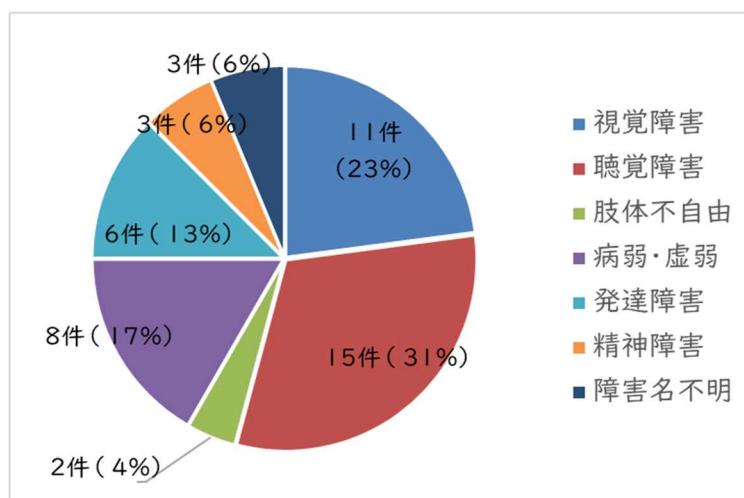


図 4-1 支援件数とその割合

授業を担当している障害学生へ行った配慮について、選択するように求めた結果を図4-2～図4-5に示す。

視覚障害のある学生への配慮として「教材の拡大（11件）」が最も多く、「教材のテキストデータ化（2件）」、「その他（2件）」と続いた（図4-2）。

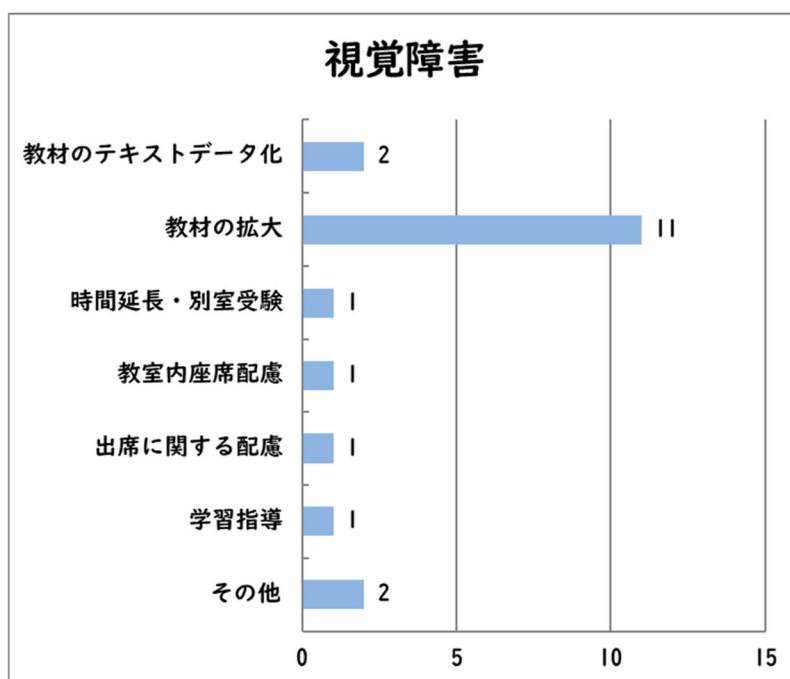


図4-2 視覚障害のある学生へ行った配慮

聴覚障害のある学生への配慮では、「ノート・PC テイク（13 件）」が最も多く、続いて「その他（6 件）」「視聴覚教材字幕付け（5 件）」と続いた（図 4-3）。

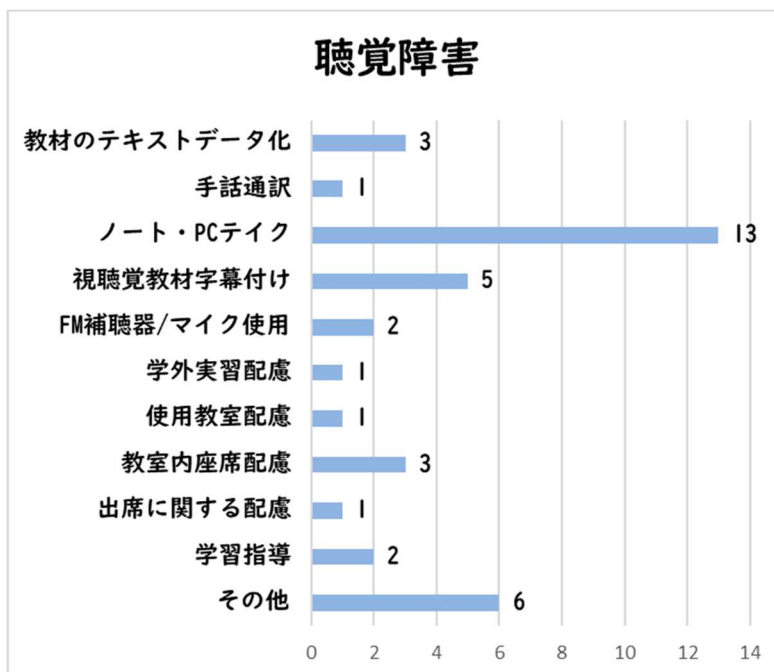


図 4-3 聴覚障害のある学生へ行った配慮

発達障害のある学生への配慮として「教材の拡大（3 件）」「その他（3 件）」が最も多く、「教材のテキストデータ化（1 件）」「ノート・PC テイク（1 件）」「TA 等の活用（1 件）」「出席に関する配慮（1 件）」と続いた（図 4-4）。

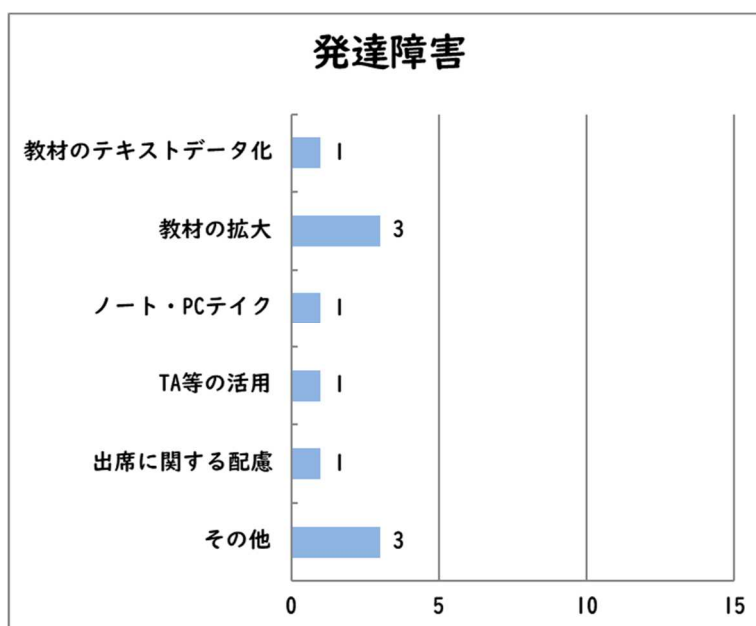


図 4-4 発達障害のある学生へ行った配慮

病弱・虚弱の学生、精神障害のある学生および障害名が分からないと授業担当教員より回答のあった学生に対する配慮を図 4-5 に示す。

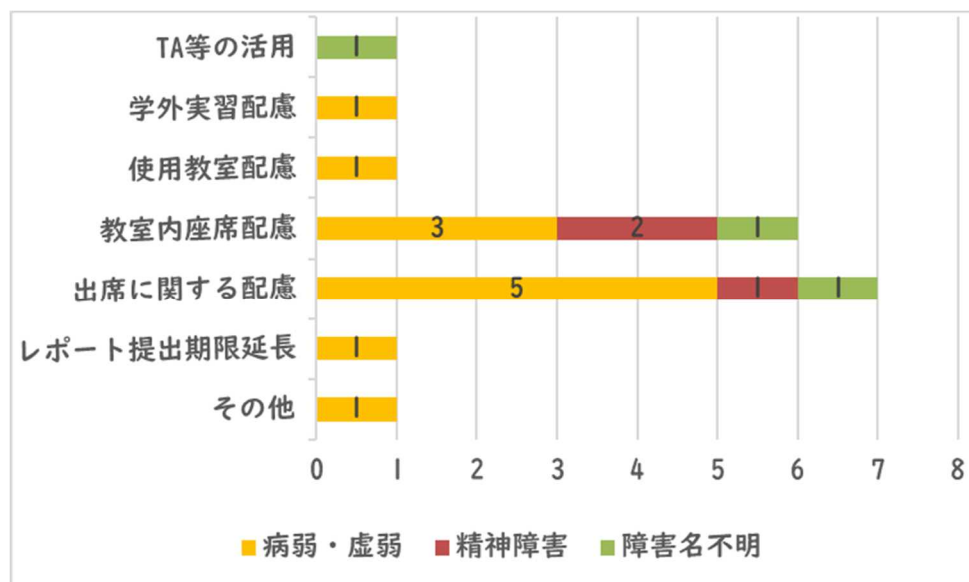


図 4-5 病弱・虚弱の学生、精神障害のある学生および障害名不明の学生へ行った配慮

以上の結果から、視覚障害のある学生および発達障害のある学生への配慮としては「教材の拡大」の件数が多く、聴覚障害のある学生への配慮としては「ノート・パソコンテイク」「視聴覚教材字幕付け」が令和元年度は最も件数が多かった。また、「教室内座席配慮」「出席に関する配慮」については障害種に関わらず全体的に行われた。

「問② 障害学生支援センターが提供している支援（パソコンテイク、字幕挿入、情報提供等）は適切であったと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-6のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」という回答が19名、「少しそう思う」という回答が5名と、障害学生支援センターで行っている配慮に一定の評価が得られたと考えられる。

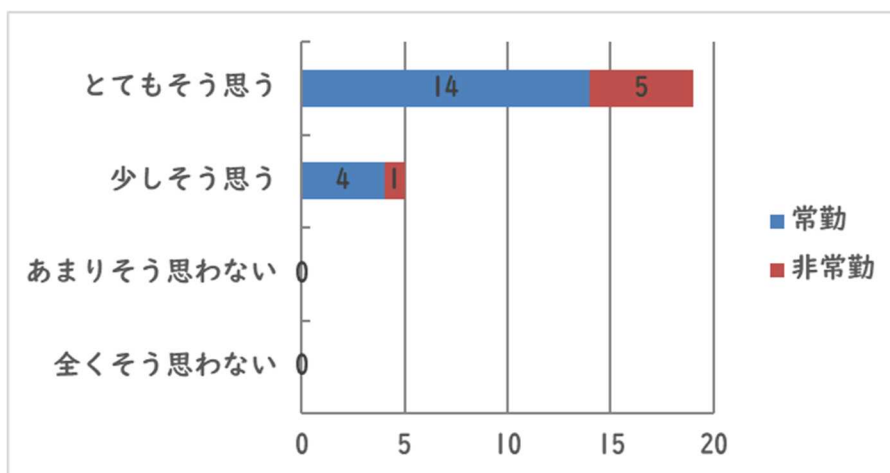


図4-6 障害学生支援センターが提供した支援は適切だったと思うか

「問③ 障害のある学生への配慮は、授業の達成目標という観点から見て十分だと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-7のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」という回答が7名と最も多く、次いで「少しそう思う」という回答が16名であった。これらの結果から、障害学生支援センターで提供する配慮は、授業の目標を達成するために十分なものであったと考えられる。その一方で、自由記述からは、学生への配慮は出来たところと出来ていなかったところ両方あると思うという意見もみられた。

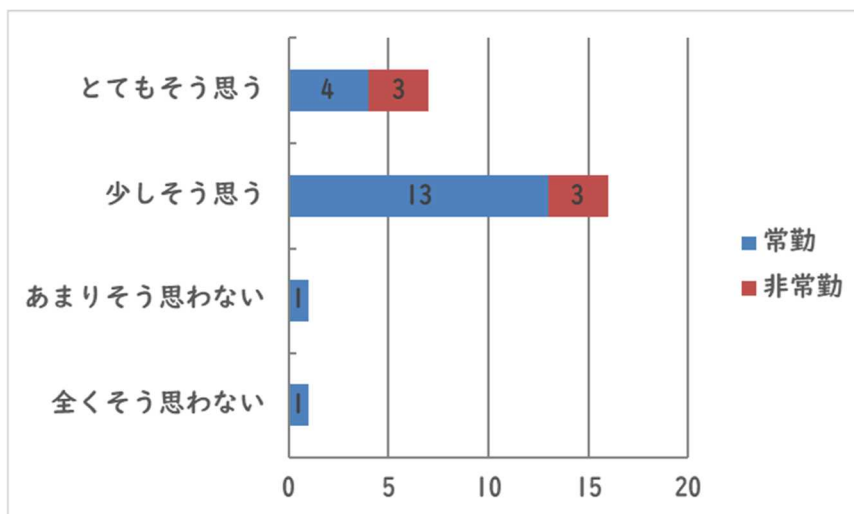


図4-7 障害のある学生への配慮は授業の達成目標という観点から見て十分だと思うか

「問④ 障害のある学生に授業を行うことで、授業のユニバーサル化が進んだと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-8のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」が6名、「少しそう思う」が12名であった一方、「あまりそう思わない」と回答した人数は5名、「全くそう思わない」と回答した人数は1名であった。

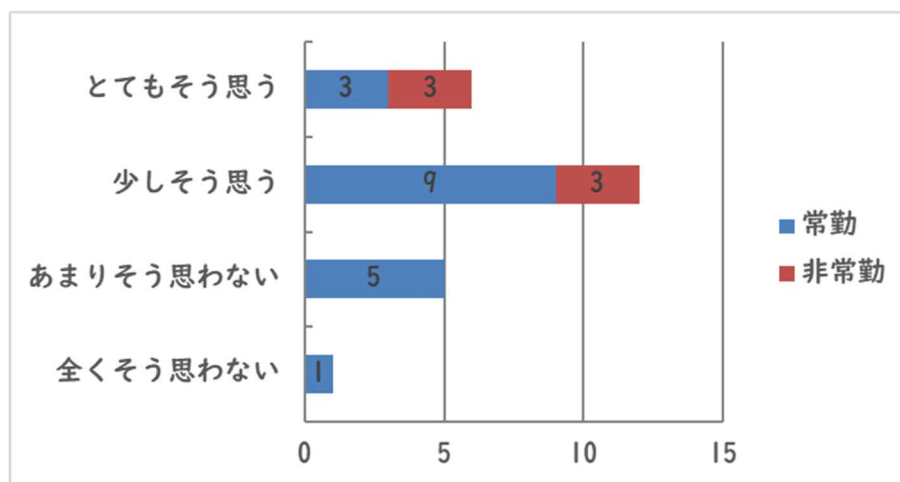


図4-8 障害のある学生に授業を行うことで、授業のユニバーサル化が進んだと思うか

「問⑤ 障害のある学生へ授業を行っていくうえでFDが必要だと思いますか。」

上記について尋ねたところ、図4-9のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」が9名、「少しそう思う」が13名、「あまりそう思わない」が1名であった。自由記述の回答では「とてもそう思うが対応は大変」「必要だと思うが一般論で終わってしまいそう」などの意見もあった。

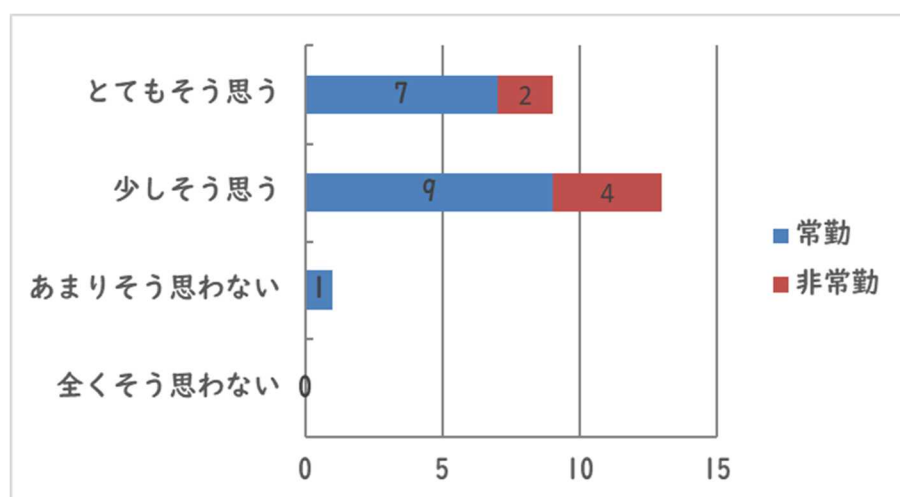


図4-9 障害のある学生へ授業を行っていくうえで、FDが必要だと思うか

「問⑥ 障害のある学生への支援を行うにあたってうまくいかなかった授業はありますか。」

上記について尋ねたところ、図4-10のような結果が得られた。回答者全体で見ると「毎回あった」が1名、「しばしばあった」が3名、「たまにあった」が9名、「全くなかった」が11名であった。授業を行うにあたってうまくいかないことがほとんどなかったと考えている授業担当教員がいる一方、うまくいかなかったと感じている教員も一定数存在した。このことから、障害学生支援センターと授業担当教員が密に連携を取りながら、配慮内容を検討していく必要性が示唆された。

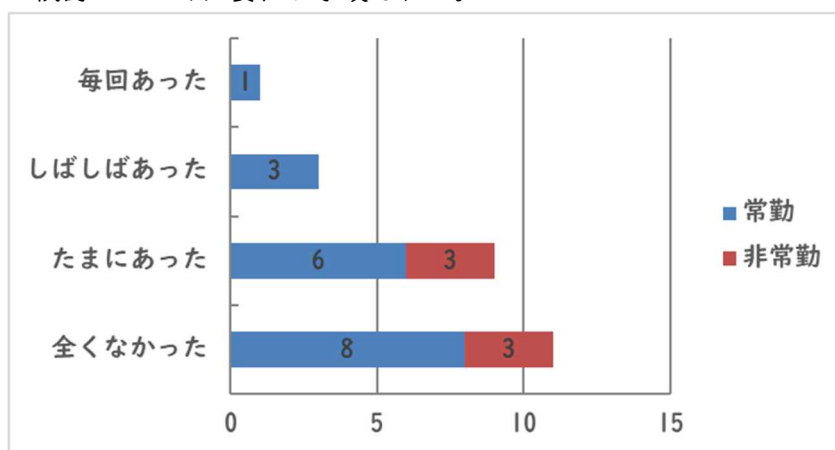
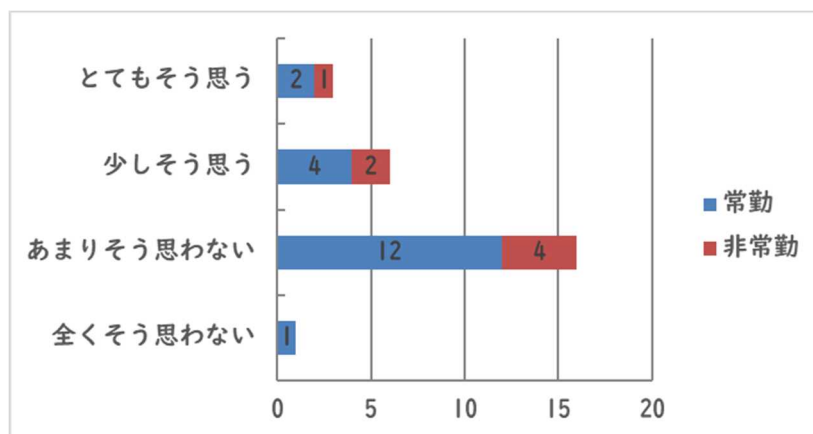


図4-10 障害のある学生の支援を行うにあたって、うまくいかなかった授業があったか

「問⑦ 障害のある学生が自分の必要な配慮事項について、能動的に先生方に伝えたいと思いますか。」

上記の問いに対して、図4-11のような結果が得られた。「とてもそう思う」が3名、「少しそう思う」が6名、「あまりそう思わない」が16名、「全くそう思わない」が1名であった。学生に対して授業の初めに配慮依頼文書を説明するよう指導を行っているものの、「あまりそう思わない」という回答が最も多く、意思表示のための支援の必要性が示唆された。



問4-11 障害のある学生が自分に必要な配慮事項を能動的に伝えていたか

「問⑧ 障害学生支援センターより送付した、障害のある学生への配慮依頼文書は十分に理解されましたか。」

上記について尋ねたところ、図4-12のような結果が得られた。「とてもそう思う」と回答した教員が22名、「少しそう思う」が5名であり、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が0名であった。障害学生支援センターより送付している、障害のある学生への配慮依頼文書について、授業担当教員より概ね理解が得られたと考えられる。

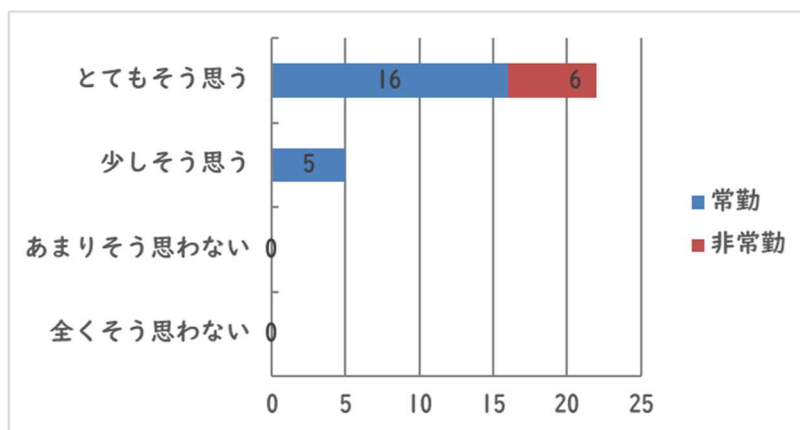


図4-12 配慮依頼文書は十分に理解できたか

本アンケート調査の結果をふまえて、授業担当教員と障害学生支援センターで支援方法についての情報共有、及び連携の必要性が状況に応じて求められる。また、授業担当教員に対して合理的配慮の内容を本人が説明するなど、意思表示のための支援も行っていく必要があると考えられる。さらに、障害学生支援センターが提供している支援を継続していくため、PC テイクや字幕挿入のスキルを次世代につなぐための入門講座及びスキルアップ講座の開催や、障害種に合わせたサポートも引き続き行っていく必要がある。